

2022年3月期 第1四半期 決算説明会

2021年8月5日

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション



2022年3月期 第1四半期決算状況

1. 概要	4
2. 売上高・利益	5
3. セグメント別業績	7
・自動車電池（国内）	8
・自動車電池（海外）	9
・産業電池電源	10
・車載用リチウムイオン電池	11
・特殊電池およびその他	12
4. 貸借対照表	13
5. トピックス	14

2022年3月期 第1四半期決算状況

- 世界経済は、各国経済対策や新型コロナウイルスのワクチン接種により回復の兆しが見られましたが、国内における緊急事態宣言の再発令やアジア地域の一部の国ではロックダウン等の措置が取られており、また原材料価格の高騰、半導体不足やコンテナ不足など先行き不透明な状況が続いています。
- 売上高は、主としてプラグインハイブリッド車用リチウムイオン電池や、国内外の自動車電池事業の鉛蓄電池の販売増加などにより増加しました。
- 営業利益および経常利益は上記影響により増加し、親会社株主に帰属する四半期純利益は、上記に加え特別利益で負ののれんを計上したことにより増加しました。

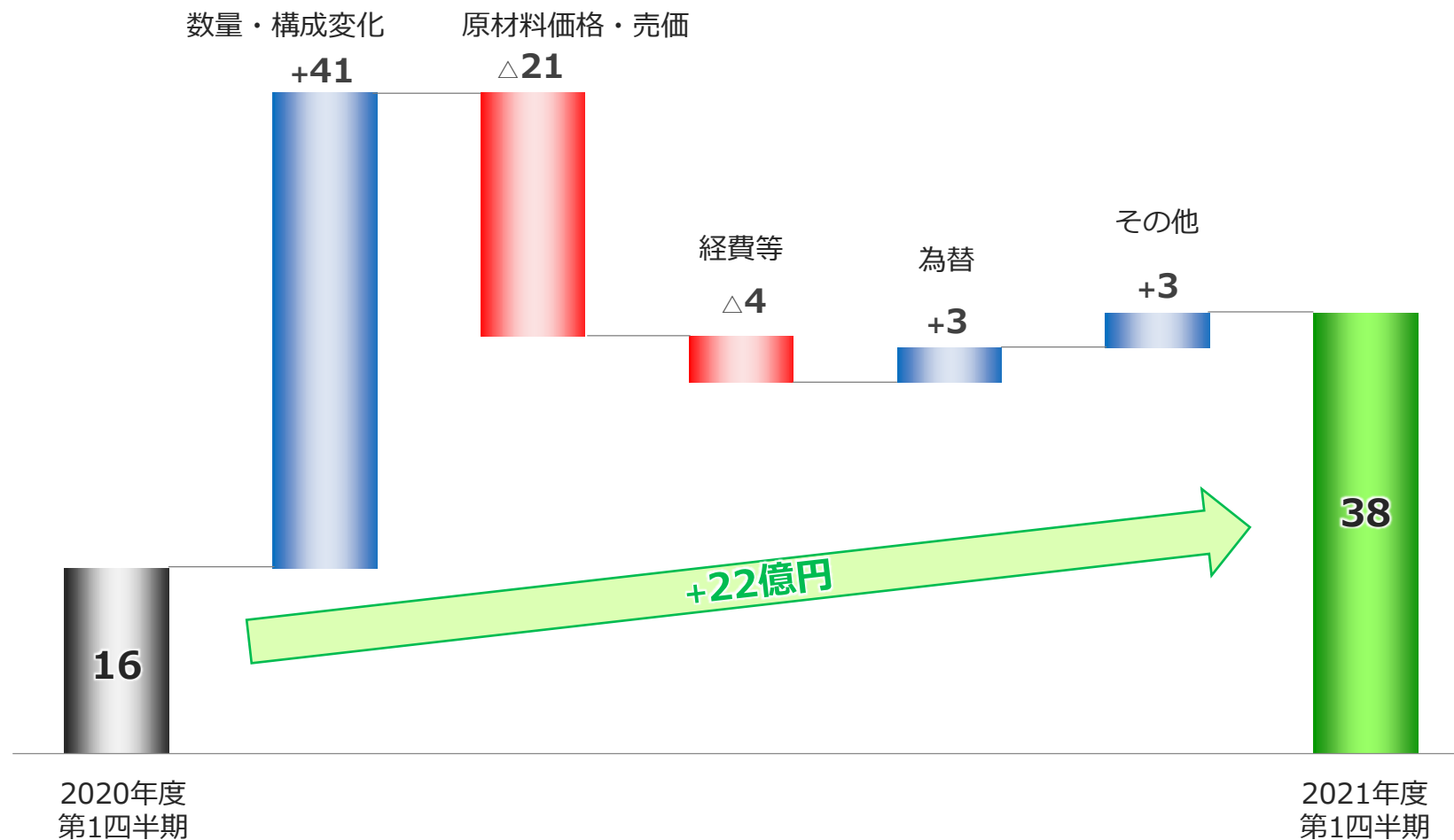
2. 売上高・利益

	2020 年度 第1四半期	2021 年度 第1四半期	増減	(億円) (前期比)
売上高	764	955	+191	(+25.0%)
営業利益 (営業利益率)	10 1.3%	過去最高 32 3.4%	+22 +2.1P	(+220.3%)
のれん等償却前営業利益 (のれん等償却前営業利益率)	16 2.1%	38 4.0%	+22 +1.9P	
経常利益	17	過去最高 43	+26	(+151.1%)
特別利益	0	15	+15	
特別損失	1	6	+5	
税前四半期純利益	16	52	+36	
法人税等	12	12	+0	
非支配株主に帰属する四半期純利益	4	13	+9	
親会社株主に帰属する四半期純利益 (四半期純利益率)	△0 △0.0%	過去最高 27 2.8%	+27 +2.8P	(-)
のれん等償却前 親会社株主に帰属する四半期純利益 (のれん等償却前四半期純利益率)	5 0.7%	32 3.3%	+27 +2.6P	
国内鉛建値 (万円/t)	24.28	29.14	+4.86	
L M E (US\$/t)	1,670	2,127	+457	
為替 (円/US\$)	107.38	109.76	+2.38	

2. 売上高・利益

営業利益増減要因（前年比較）

（億円）



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益です。

3. セグメント別業績

(億円)

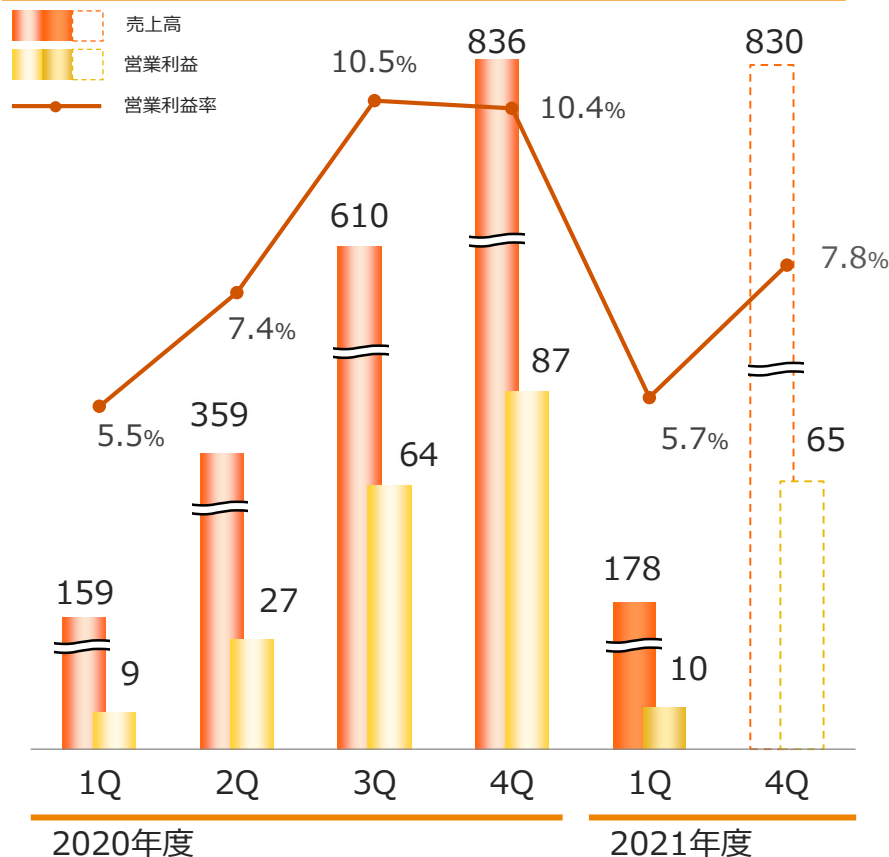
		2020 年度 第1四半期		2021 年度 第1四半期		増減	
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:P)
自動車電池	国内	159	9 (5.5)	178	10 (5.7)	+19	+1 (+0.2)
	海外	368	22 (5.9)	447	30 (6.6)	+79	+8 (+0.7)
産業電池電源		147	△3 (△2.2)	199	△6 (△3.1)	+52	△3 (△0.9)
車載用リチウムイオン電池		47	△12 (△25.2)	89	2 (1.8)	+42	+14 (+27.0)
特殊電池およびその他		43	0 (0.4)	41	3 (6.5)	△2	+3 (+6.1)
合計		764	16 (2.1)	955	38 (4.0)	+191	+22 (+1.9)

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

3. セグメント別業績（自動車電池（国内））

自動車電池（国内）

売上高・営業利益・利益率



增收増益

(億円)

2021年度 第1四半期商況

- ▶ 新車向け販売数量は、半導体不足の影響があったものの、新型コロナウイルス影響から回復
- ▶ 補修向け販売数量は昨年度から引き続き堅調に推移

増減益要因

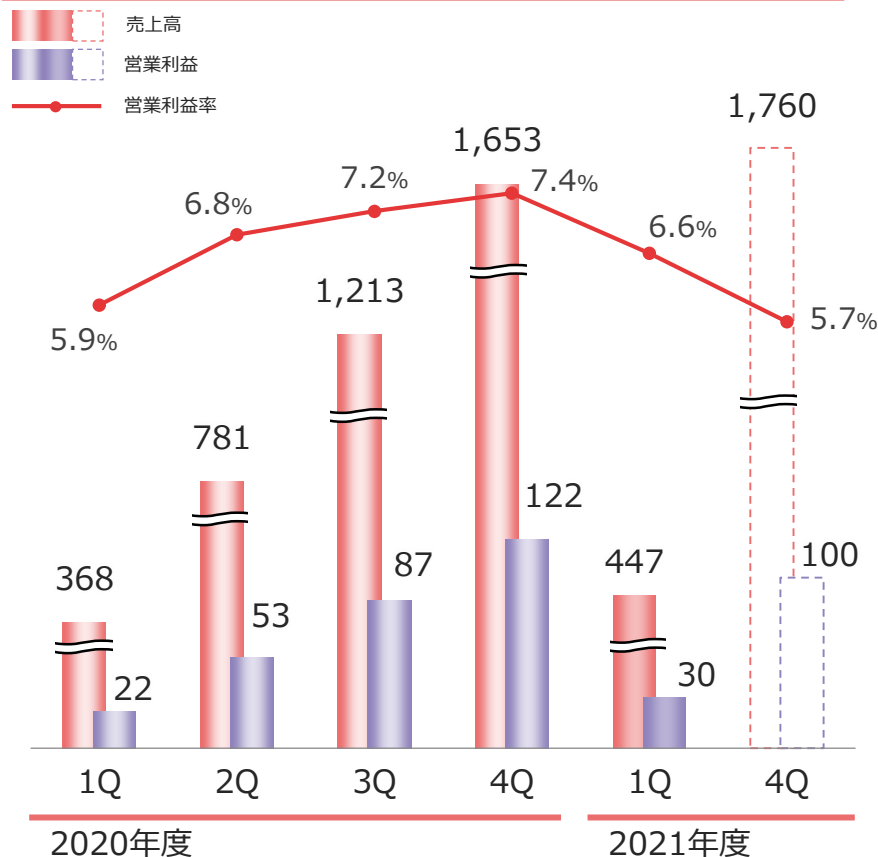
数量・構成変化	+10
鉛価格・売価	△11
合理化・経費等	+2

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

3. セグメント別業績（自動車電池（海外））

自動車電池（海外）

売上高・営業利益・利益率



増収増益

(億円)

2021年度 第1四半期商況

- ▶ アセアンでの自動車・オートバイ用の販売数量が増加
- ▶ 欧州での自動車用補修向け販売数量が増加
- ▶ 鉛価格上昇に伴う販売価格上昇の影響により増加
- ▶ 円安による為替換算の影響により増加

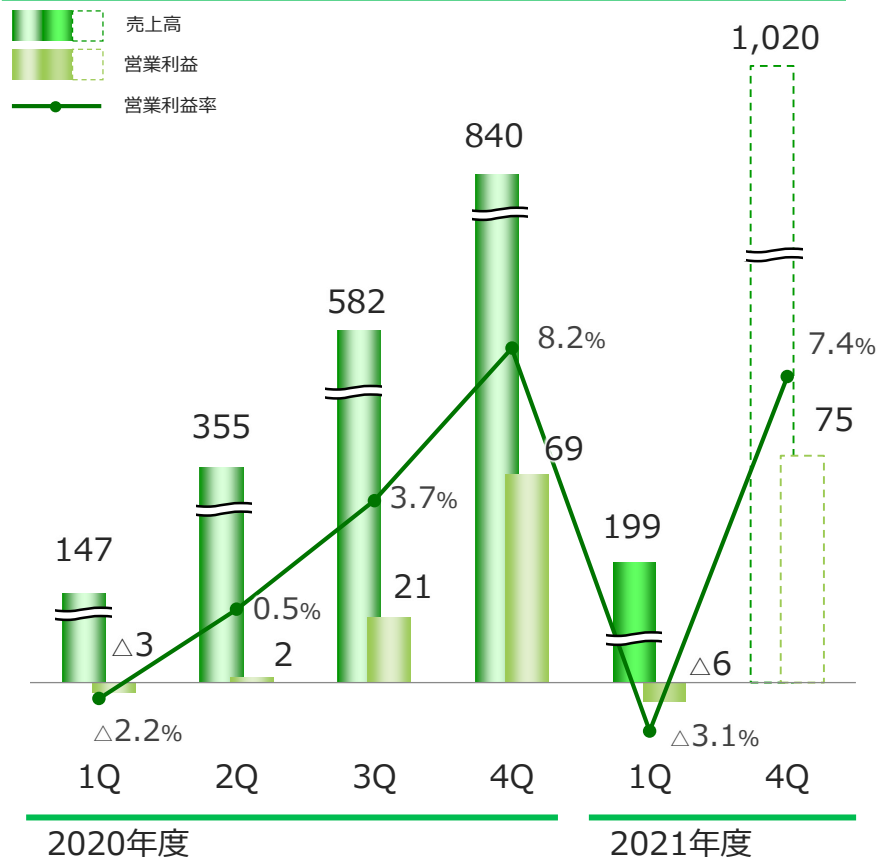
増減益要因

数量・構成変化	+19
鉛価格・売価	△5
合理化・経費等	△9
為替	+3

3. セグメント別業績 (産業電池電源)

産業電池電源

売上高・営業利益・利益率



増収減益

(億円)

2021年度 第1四半期商況

- ▶ 大型風力発電用リチウムイオン電池の販売数量が増加
- ▶ サンケン電気の社会システム事業譲受により5月から連結対象に加わったため増加

増減益要因

数量・構成変化	+0
鉛価格・売価	△1
合理化・経費等	△2

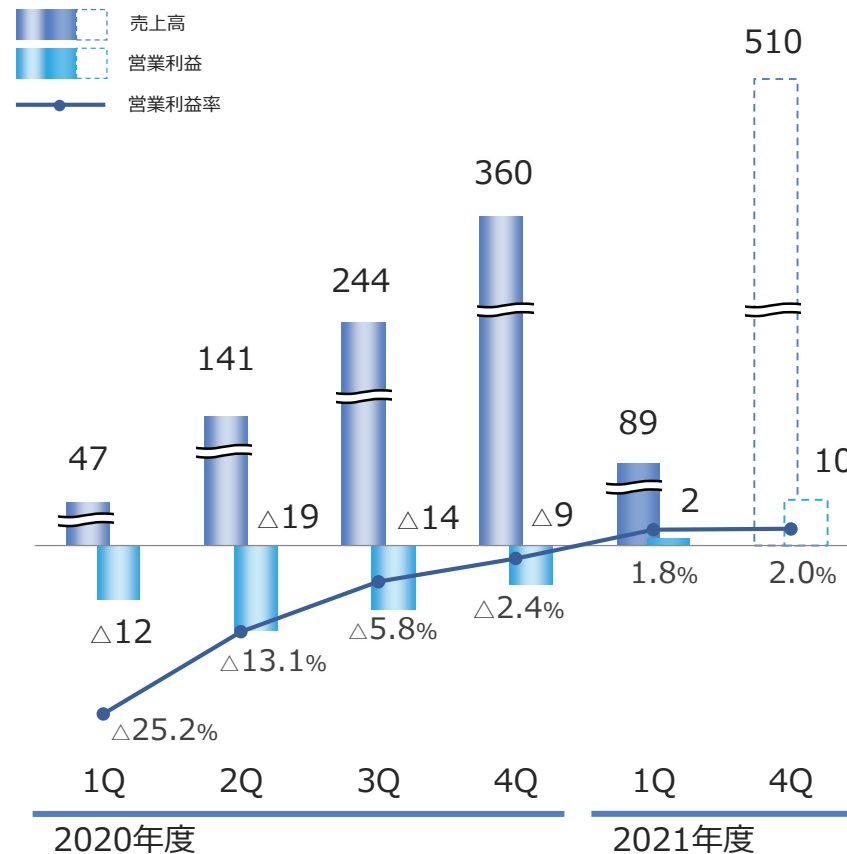
3. セグメント別業績 (車載用リチウムイオン電池)

車載用リチウムイオン電池

増収増益

(億円)

売上高・営業利益・利益率



2021年度 第1四半期商況

- ▶ [リチウムエナジー ジャパン (LEJ)]
プラグインハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売は半導体不足による影響を受けたものの、新型コロナウイルス影響から回復
- ▶ [ブルーエナジー (BEC)]
半導体不足の影響は受けたものの、搭載車種の販売好調により増加

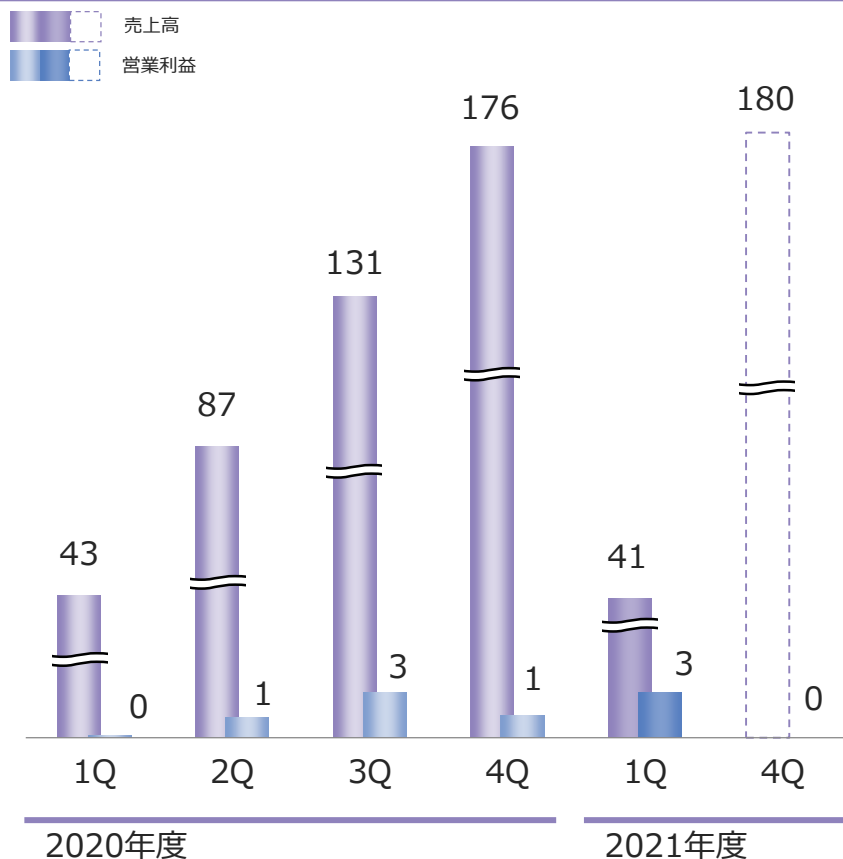
増減益要因

- BECは売上高増加の影響により増益
- LEJは販売数量の増加ならびに償却費負担の減少などにより増益

3. セグメント別業績 (特殊電池およびその他)

特殊電池およびその他

売上高・営業利益



前期並み

(億円)

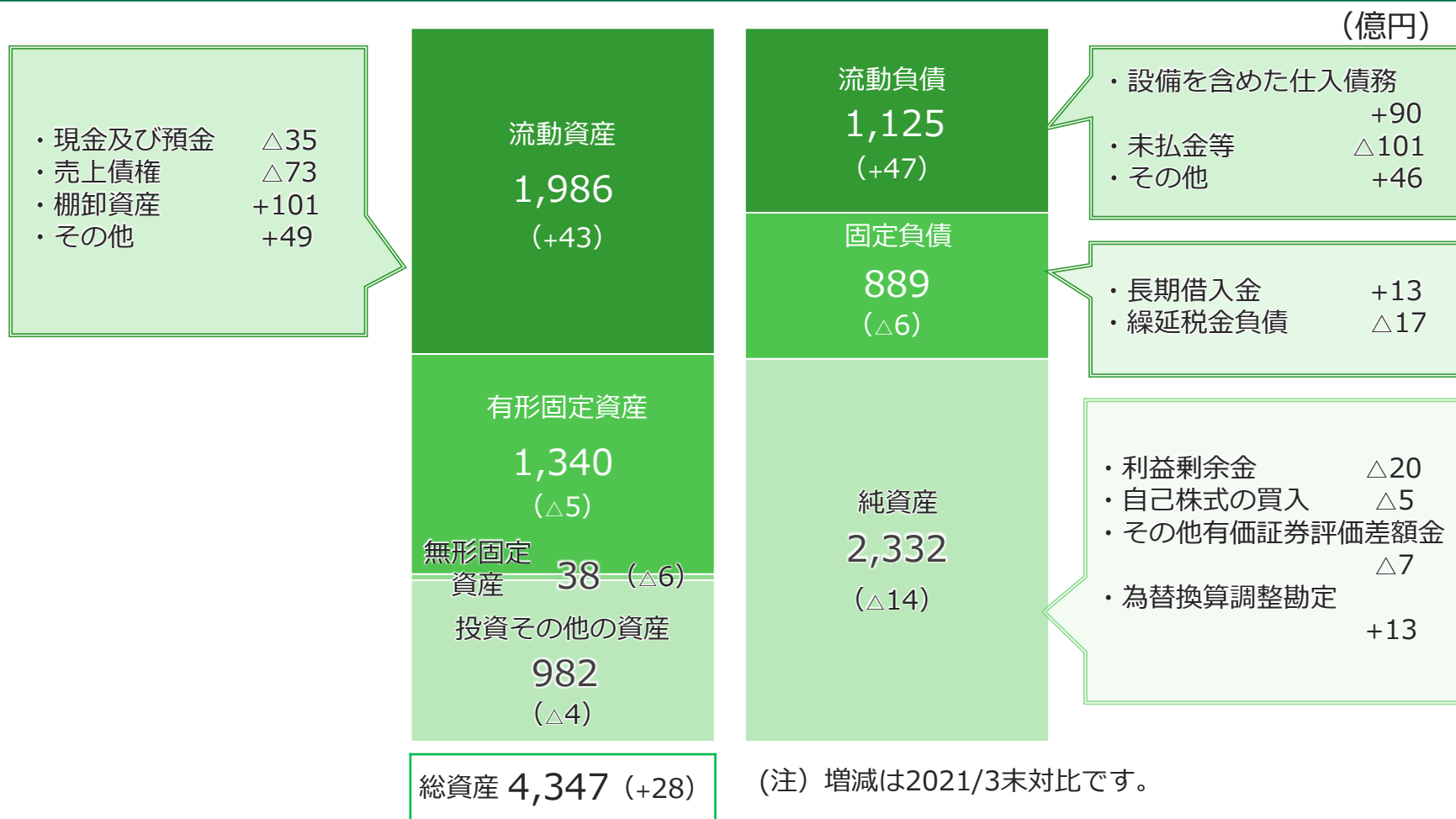
2021年度 第1四半期商況

- 潜水艦用リチウムイオン電池の生産は順調に推移
- 航空機用リチウムイオン電池の販売は新型コロナ影響から回復

増減益要因

航空機用リチウムイオン電池の販売増により増益

4. 貸借対照表



	2021/3末	2021/6末
自己資本比率	46.8%	46.1%
借入金総額	654億円	679億円

5. トピックス

サステナビリティ・リンク・ローン（SLL）契約を締結
～本邦初 目標達成時の金利メリットを京都市民環境ファンドへ寄付～

当社のサステナビリティへの取り組み

□ GY環境長期目標2030

2030年度までに事業活動によるCO₂排出量を2018年度比で30%以上削減することを目標として設定

SLL調達の目的

□ BEC第二工場の設備投資の資金調達

日系自動車メーカーを中心に2030年代半ばまでHEV需要が旺盛であり、HEV生産能力を拡大する必要があるため

□ ファイナンス面からもESGに貢献

企業のESG目標にコミットし、融資条件と連動させることでファイナンス面からESGの取り組みを促進するため



ESG目標達成のための取り組み

□ 全社プロジェクト「省エネ・再エネプロジェクト」

- ・工場・事業所での設備更新による省エネの徹底
- ・再生可能エネルギーの自家消費と購入を検討

SLL概要

実行日	2021年7月19日
期間	5年
借入総額	70億円
資金使途	事業資金
貸出人	三菱UFJ銀行、三井住友信託銀行 京都銀行、滋賀銀行 (各行とのバイラテラル方式※)

※銀行貸し出しの契約形態の一つで、貸し手（金融機関）と借り手（企業等）が相対で契約する貸出方式

目標達成で得た金利メリットを京都市環境共生市民協働事業基金（京都市民環境ファンド）に寄付

地域社会の健全で持続的な発展に貢献

本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。



Creating the Future of Energy

連絡先

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

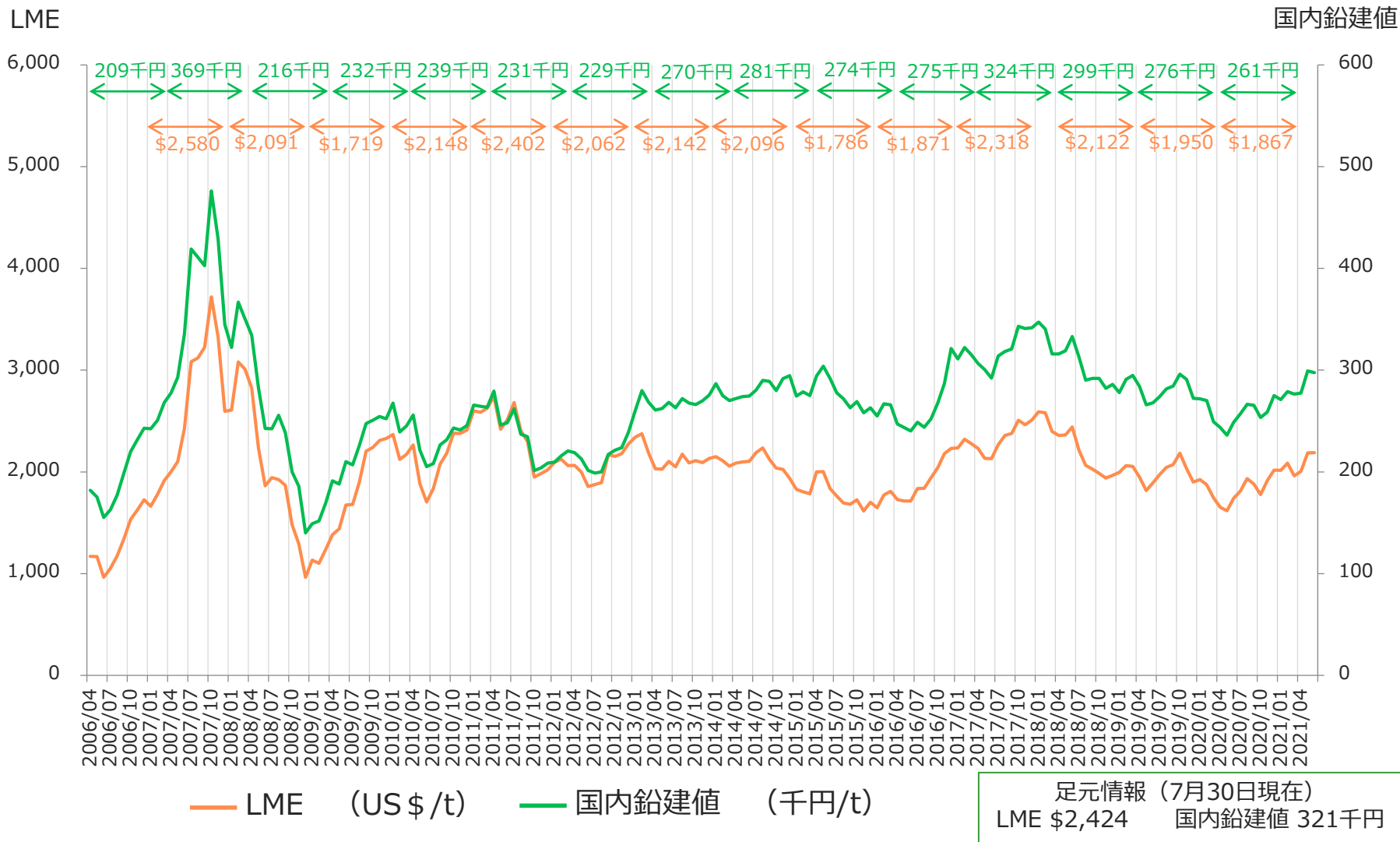
コーポレート室（広報） 青木 裕 ・ 西島 務 ・ 田中 祥太

Tel : 075-312-1214

<https://www.gs-yuasa.com/jp>

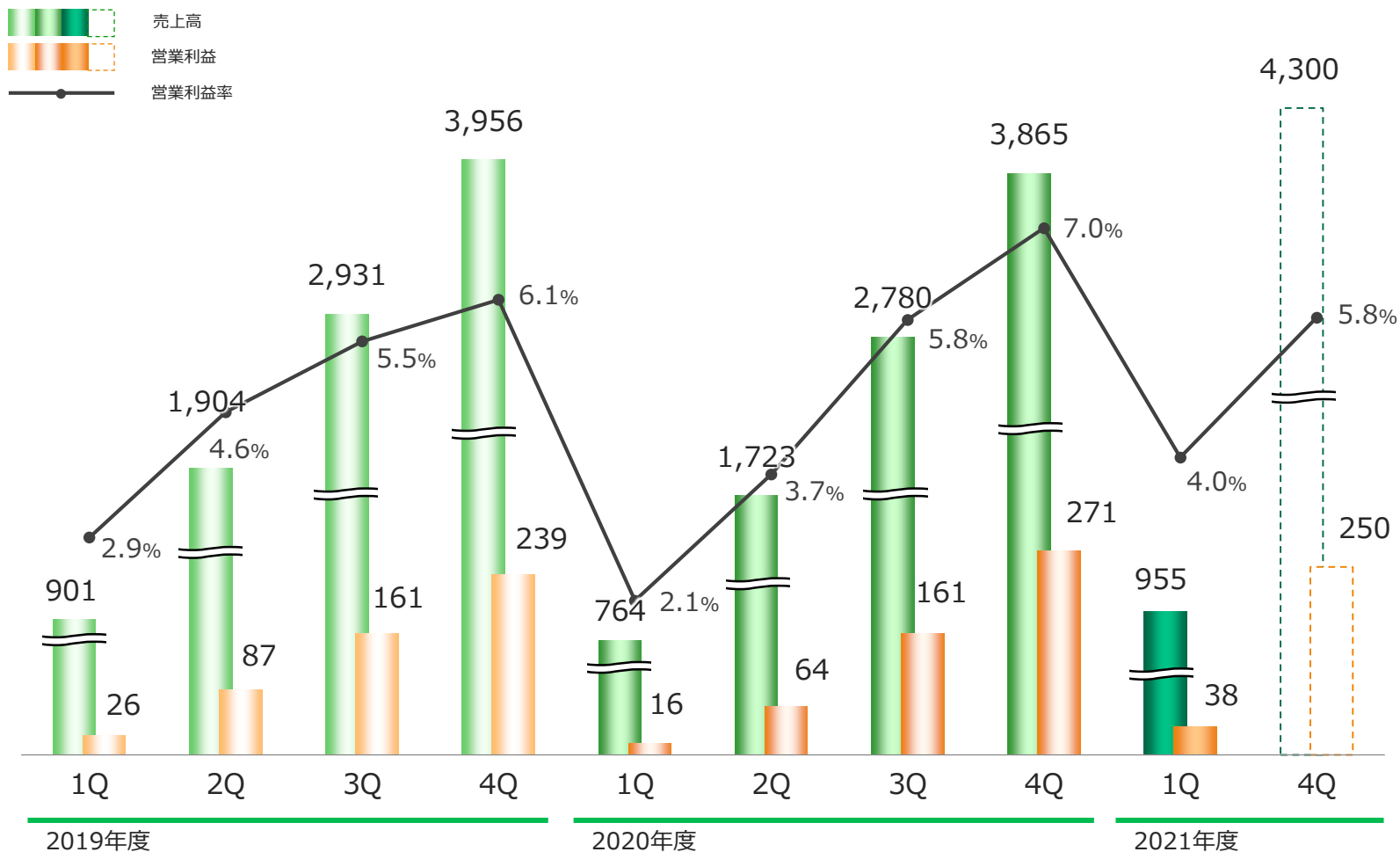
参考資料

原材料価格の推移



売上高・営業利益・利益率推移

(億円)



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。